

平成22年度

# 学校評価アンケート結果報告

和歌山市立小倉小学校

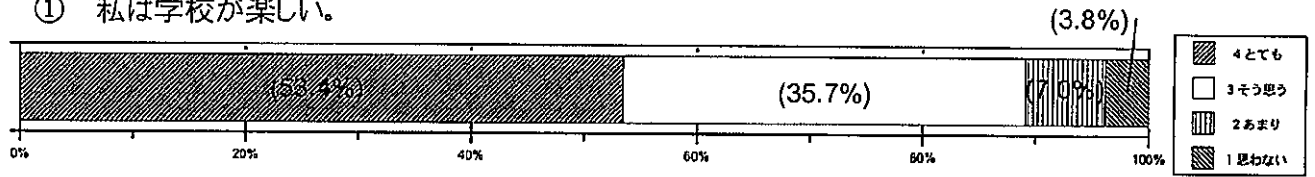
# 目次

- 1 「よりよい小倉小学校をつくるためのアンケート」(児童) …P 1
- 2 各学年の結果分析と対策について …P 2～7
- 3 「よりよい小倉小学校をつくるためのアンケート」(保護者)と  
結果・対策について  
…P 8～9
- 4 「よりよい小倉小学校をつくるためのアンケート」(教職員)と  
結果・対策について  
…P 10～14
- 5 平成22年度「学校運営計画」 …P 12
- 6 平成22年度「自己評価書」 …P 13
- 7 平成22年度「外部評価書」 …P 14

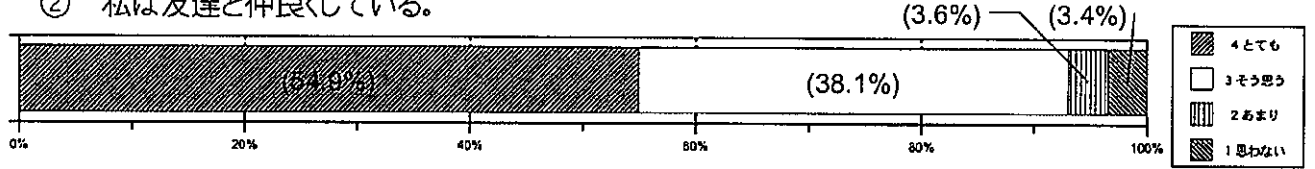
# 児童のアンケート

平成22年度  
小倉小学校

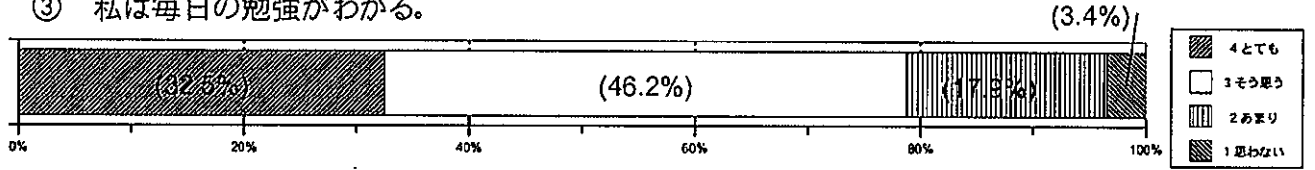
① 私は学校が楽しい。



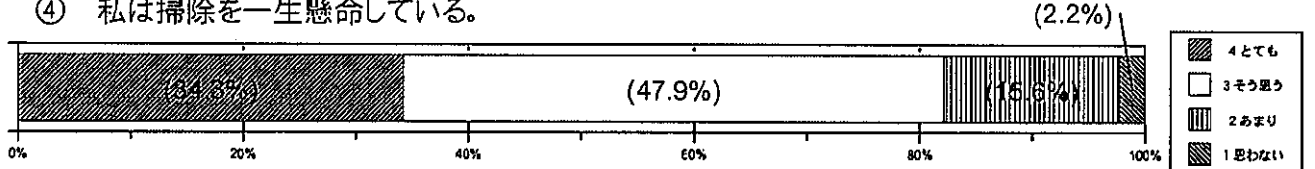
② 私は友達と仲良くしている。



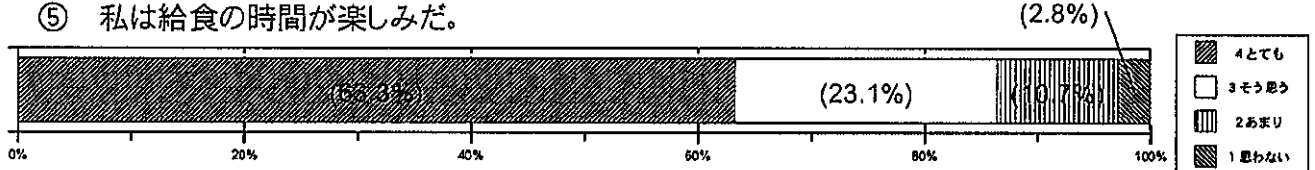
③ 私は毎日の勉強がわかる。



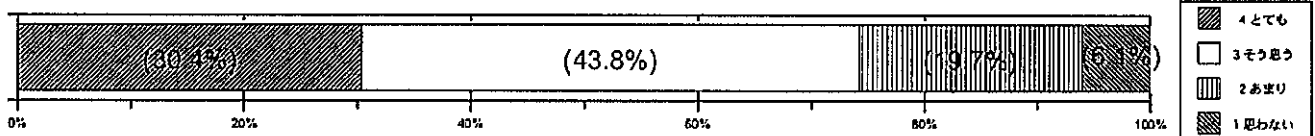
④ 私は掃除を一生懸命している。



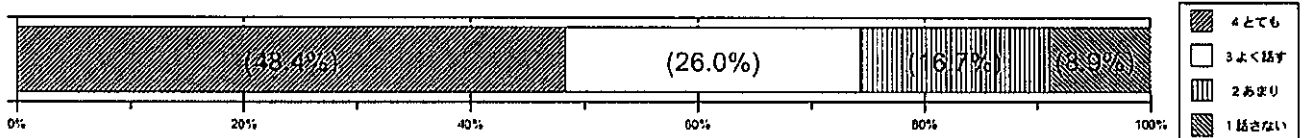
⑤ 私は給食の時間が楽しみだ。



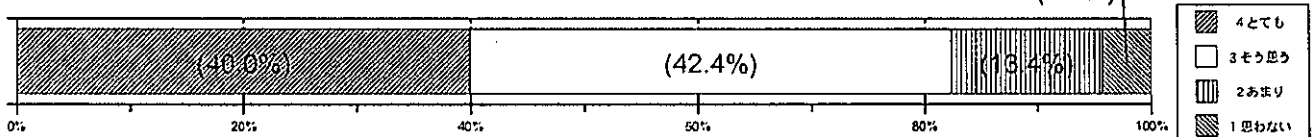
⑥ 私は気持ちのよい挨拶ができる。



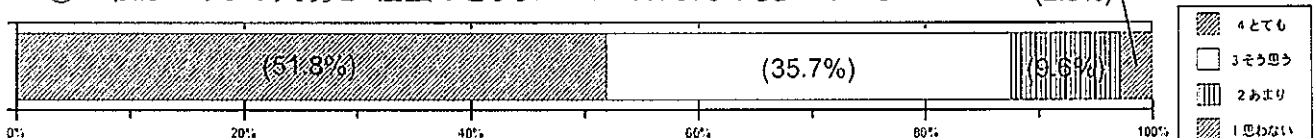
⑦ 私は、家の人に学校のことをよく話す。



⑧ 私の学校は、きれいで使いやすい。



⑨ 私はいのちの大切さ、社会のきまりについておしえてもらっている。



学校評価「よりよい小倉小学校をつくるためのアンケート」結果の分析と対策について

1 ( 1 ) 年の児童アンケートの分析

① 学校生活	入学当初、緊張している子もいたが、だんだん学校生活になれ、ほとんどの子が楽しく学校生活を送れているようである。
② 友だち関係	入学当初は同じ保育圏のつながりが大きかったが、交友関係が徐々に広がってきた。しかし、まだまだ友だちとの関わりが苦手な子もいる。
③ 勉強	ほとんどの子が一生懸命に取り組んでいるが、集中力のない子や理解するのに時間がかかる子、聞くことの苦手な子が勉強がわかりにくいと感じているようだ。
④ 掃除	ほとんどの子はよく頑張って掃除をしている。しかし、箒や雑巾をまだ上手に使えない子がいるため、朝の清掃を一緒にし、指導を続けている。
⑤ 給食	好き嫌いの多い子や、食の細かい子が楽しいと感じていないので、食べることの楽しさや大切さを、「食育」等を通して取り組んでいる。
⑥ あいさつ	アンケート結果では、気持ちのよい挨拶が出来ていると感じている子が多いが、実際は、自ら進んで挨拶する子は少ない。

⑦ 家庭で学校のことを話す

家庭の多忙な環境も、影響すると思われる。

⑧ 学校の施設

ほとんどの子はきれいと感じている。

⑨ 命の大切さや社会のきまり (中・高学年)

2 ( 1 ) 年児童の課題と対策

① 課題

学習面、生活面で自己評価の低い子に、どう支援していくか。

② 対策

<学習>一人ひとりの子どもの実態を把握し、評価、指導、支援していく。

・机間指導 ・個別指導 ・板書、発問、教材、教具の工夫 ・体験活動の重視

<生活>よりよい人間関係を築き、基本的な生活習慣を身につけさせるために、道徳や学級活動などを通して、根気よく指導していく。

家庭との連携も密にしていく。

学校評価「よりよい小倉小学校をつくるためのアンケート」結果の分析と対策について

1 (2) 年の児童アンケートの分析

① 学校生活	ほとんどの子は、楽しく学校生活を送れているようである。
② 友だち関係	ほとんどの子は仲良くできている。自己中心的で友だちとのかかわりが苦手だったり、もちにくかったりする子が、仲良くできていないと思われる。
③ 勉強	多くの子は理解できていると書いている。学習内容が増え、難易度が上がっていることが原因で、勉強がわかりにくいと感じている子もいる。
④ 掃除	ほとんどの子はよくがんばっている。雑巾がけやほうきの使い方にもなれ、ずいぶん上手になった。
⑤ 給食	好き嫌いの多い子（特に野菜嫌い）や、食べるのが遅い子もいるが、給食の時間は、班での会食であり、苦痛にはあまり思っていないようである。
⑥ あいさつ	自分からあいさつできる子や、恥ずかしくてできない子もいる。大きな声であいさつすると、気持ちがいいという感覚を味わわせたい。

⑦ 家庭で学校のことを話す

おうちの方が忙しい家庭の児童は、学校でのできごとを話す機会が少ないようである。

⑧ 学校の施設

夏休みの耐震工事により、学校が整備された箇所もあることが、よい評価につながっている。

⑨ 命の大切さや社会のきまり（中・高学年）

2 (2) 年児童の課題と対策

① 課題

- ・コミュニケーション能力が未発達なため、些細なことでトラブルになることもある。
- ・落ち着きがなく、話がきちんと聞けず、うわすべりな子もいる。
- ・自己中心的な価値観で、周りのことが見えてない子もいる。

② 対策

- ・コミュニケーション力を高めるために、朝の会や帰りの会、学級活動を充実させ、子どもの自主的な活動の中に、できるだけコミュニケーションできる場を作る。またグループ学習を取り入れることにより、少人数で話せる機会を設ける。
- ・学習では、子どもの興味関心を大事にし、具体物や拡大図を準備するなど、わかる授業を目指す。また日頃、「相手の顔を見る」、「うなずきながら聞く」等、聞く構えも大切にしたい。
- ・道徳の教材で、思いやりや生命の大切さを学んだり、お誕生日メッセージや、帰りの会で友だちの良さを知らせたりすることをさらに進め、お互いを大切にすることを培いたい。

学校評価「よりよい小倉小学校をつくるためのアンケート」結果の分析と対策について

1 (3) 年の児童アンケートの分析

① 学校生活	ほとんどの子どもは、学校生活が楽しいと感じている。 3年生になり学習課題が増えた事により、学習がわかりにくい子や時間がかかる子があまり楽しくないと感じているようである。
② 友だち関係	男女とも仲良くできている。4月当初はクラス替えもあり様子を見ていたが、新しい仲間作りがうまくできているようである。
③ 勉強	学習内容が増え難しくなった事もあり、「聞くことが苦手な子」、「集中力が続かない子」、「理解するのに時間がかかる子」が勉強がわかりにくいと感じているように思う。
④ 掃除	ほとんどの子はよく頑張っているが、ほうきや雑巾の使い方が十分でない子もいる。
⑤ 給食	楽しみな子が多数だが、好き嫌いの多い子（特に野菜）や食の細い子は楽しいと思っていない。
⑥ あいさつ	あいさつの声をかけると返すことができるが、自分からすすんであいさつしている子は多くないように思う。

⑦ 家庭で学校のことを話す

家庭環境にもよるが、学校の出来事を話している子が多い。

⑧ 学校の施設

手洗い場が少なく、遊具等でも使いにくい物があり、不便に感じているようである。

⑨ 命の大切さや社会のきまり（中・高学年）

学級指導や道徳などで学ぶ時間が多いので、多数が「そう思う」と感じている。

2 (3) 年児童の課題と対策

① 課題

どの子どもも学習がわかり、学校生活が楽しいという思いをもたせるように指導、支援していく。

② 対策

- ・ 学習面でどの子どもにもわかる授業を心がけ、教材、教具を工夫し、体験的な活動を取り入れるようにする。
- ・ 子どもの「できる・わかる」という達成感や成就感を持たせ、グループ活動や学級集団での学びを大切にした学級集団作りをする。
- ・ 教材指導とともに道徳や学級活動の中で心の教育を実践していく。

学校評価「よりよい小倉小学校をつくるためのアンケート」結果の分析と対策について

1 (4) 年の児童アンケートの分析

① 学校生活	ほとんどの子どもは、学校生活が楽しいと感じている。「思わない」と答えた子どもについて個人的にみたが、学習がわかりにくい子や同じクラブで親しい子がいないなどの理由である。
② 友だち関係	ほとんどの子どもが友達と仲良くしていると答えている。
③ 勉強	「毎日の勉強がわからない」と感じている子どもが少し多いのが気になる。
④ 掃除	ほとんどの子は一生懸命掃除をしている。
⑤ 給食	野菜嫌いのある子どもが各クラスともいるが、大半の子どもが給食の時間を楽しみにしているようだ。
⑥ あいさつ	ほとんどの子どもが「できている」と感じているようだが、実態として気持ちのよい挨拶ができているとは感じられない。
⑦ 家庭で学校のことを話す	家で学校の話をしている子が多く、保護者からも色々な情報をもらう。
⑧ 学校の施設	「思わない」としている子どもは、トイレの古さや手洗い場の少なさに不便を感じているようだ。
⑨ 命の大切さや社会のきまり (中・高学年)	学級指導や道徳などで学ぶ時間が多いので、「とても思う」のポイントが高い。

2 (4) 年児童の課題と対策

① 課題	「毎日の勉強がわからない」と感じている子どもが多い点である。特に算数科でつまづいていると考えられる。難易度の高い学習が増えたことで、従来でも算数嫌いになりかねないのに加え、補助教材でさらに難しい内容が増えたことが原因と考えられる。 (前年度と比べ他の項目は全てポイントが上がっているのに、この項目でのポイントの下落が大きい)。
② 対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業指導の改善・工夫に努め、どの子にもわかる授業を心がける。</li> <li>・ 朝学の時間を利用して、基本計算を繰り返し練習し定着を図る。</li> <li>・ グループ学習を多く取り入れ、学びあうことで「できる」「わかる」という達成感をもたせる。</li> </ul>

学校評価「よりよい小倉小学校をつくるためのアンケート」結果の分析と対策について

1 ( 5 ) 年の児童アンケートの分析

① 学校生活	長期欠席者はなく、心身ともに元気な子が多いので、登校することを戸惑う子の刺激になっているのだろうか。
② 友だち関係	トラブルを起こすのは各クラスで決まった子どもたちである。また、一人で過ごす方が楽だという子もいる。それぞれ個別に指導している。
③ 勉強	宿題は授業の復習内容に、朝学も充実させている。個人差が大きいので休憩時も個別指導を続けている。
④ 掃除	掃除をしない子はいないが、もっと丁寧に出来ると考えているのだろう。
⑤ 給食	メニューにより食べる量が変わる。野菜が苦手な子も多く、高学年ではあるが量も調整している。
⑥ あいさつ	気持ちのよい挨拶とはどのようなものと考えているのか、話し合い指導したい。

⑦ 家庭で学校のことを話す

放課後、塾や習い事、遊びに忙しい子が多い。

⑧ 学校の施設

掃除をより丁寧に取り組むと、意識も変わっていくだろう。

⑨ 生命の大切さや社会のきまり (中・高学年)

小倉園さんとの交流、わうくらす等で特に学習しているが、子ども達はいのちの大切さという意識が薄いのだろう。

2 ( ) 年児童の課題と対策

① 課題

全体的に「とてもそう思う」と自信を持って生活している子が少ないと思われる。自主性、責任感をより育てる必要性を感じる。また元気で友達とのかかわりを楽しむ子も多いが、派目はずすことも多く、それが基本的な生活習慣に影響しているのだろう。

② 対策

次年度は6年生になる子どもたちである。その意識を高く持たせ、何をするにも他学年のお手本であることを自覚できる子を増やしていきたい。自分たちの学年はもちろんのこと、全校児童が学校や自分への思いが変わっていくと考える。

学校評価「よりよい小倉小学校をつくるためのアンケート」結果の分析と対策について

1 (6) 年の児童アンケートの分析

① 学校生活	学校が楽しいと感じている子が88.3%。多くの子がそう感じている様だが、少数の子の実態の把握に努め、対策を講じたい。
② 友だち関係	昨年の実態と同様7%の子が、仲良くしていないと感じている。そう感じている子を大切にしながら、学級の雰囲気作りをしていきたい。
③ 勉強	勉強が分かると感じているのは84%。引き続き授業研究を深めよりわかる授業の工夫に努めたい。
④ 掃除	掃除を頑張っていないと意識している子が30%近くもいることが気になる。担任も共に清掃活動を行い意識を高めたい。
⑤ 給食	半数の子がとても給食を楽しみにしていると回答している。そう思うを含めると80%近くの子が楽しみにしているが、好き嫌いも高学年になると固定されてきている。
⑥ あいさつ	あいさつを全くしないわけではないが、自分から進んでする意識が弱い。自分からあいさつできるように、声かけを続けたい。

⑦ 家庭で学校のことを話す

全校児童の中ではよく話し合っている方であるが、成長期から話さない子が昨年よりも増加したようだ。

⑧ 学校の施設

④掃除の項目とよく似た結果であり、④の意識の低いことが反映されているかもしれない。

⑨ 生命の大切さや社会のきまり (中・高学年)

授業、生活等多くの場面で取り組んできたつもりであるが、こちらが考えているより意識が低いと感じる。生命の大切さ、社会のきまりは、さらに意識を高く持ち、指導していかなければならない。

2 (6) 年児童の課題と対策

① 課題

- ・どの項目においても低い評価をする子に対する支援をすること。
- ・あいさつ・掃除等、基本的な生活習慣、公共性等の指導をすること。
- ・「生命の大切さ」への意識を高めること。

② 対策

- ・どの子も居場所がある学級の雰囲気づくりをすることが一番大切だと考える。
- ・ミニドラ、ドラドラなどを通して家庭と連携して基本的な生活習慣の大切さの意識を高める。
- ・あらゆる場面を通して「生命の大切さ」人権について考えられる機会を作っていく。

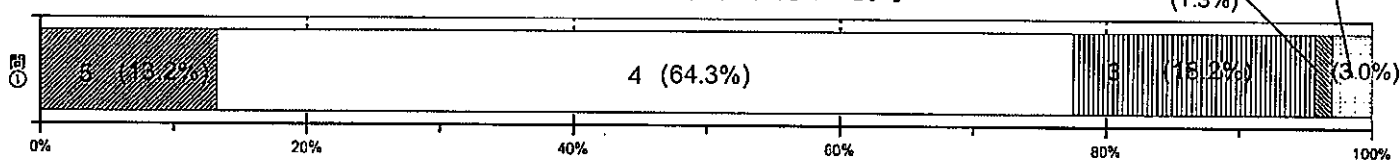
# 平成22年度「保護者アンケート報告」

小倉小学校  
H23年1月21日

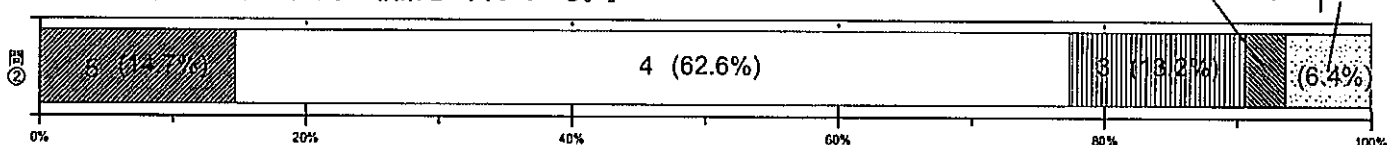
保護者の皆様からいただいた、アンケート（のべ人数468）の集計報告をさせていただきます。  
各項目ごとに、帯グラフで

5…とてもそう思う 4…まあそう思う 3…あまりそう思わない 2…思わない 1…わからない  
と表示しています。

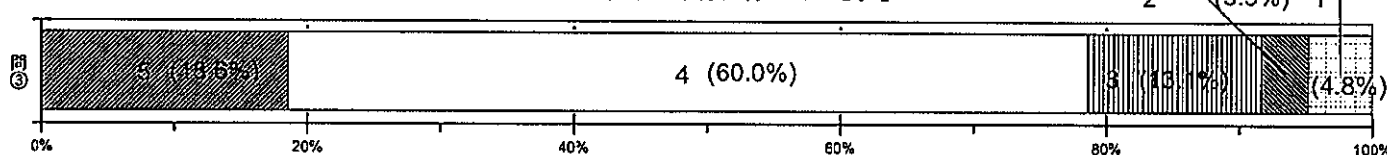
「学校は、学校の教育活動や子どもの様子を保護者に分かりやすくつたえている。」



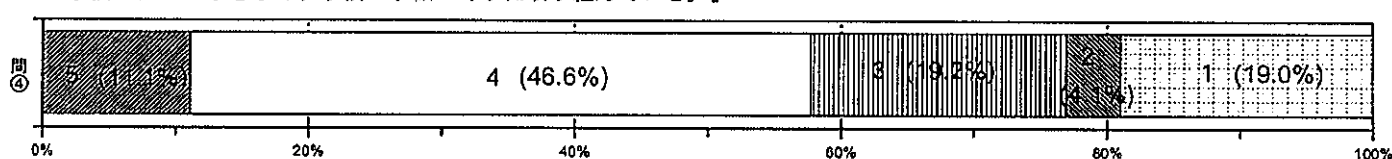
「学校、子どもにわかりやすい授業を工夫している。」



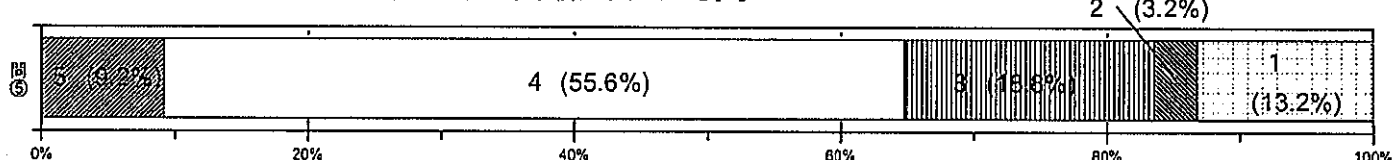
「学校は、子どもの安全確保・健康管理のための取り組みを十分に行っている。」



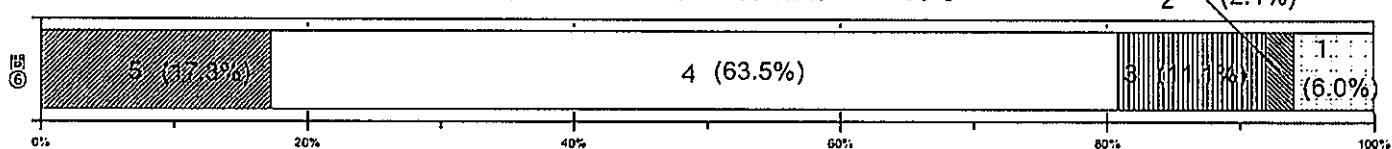
「学校は、いじめをなくす学校・学級づくりに取り組んでいる。」



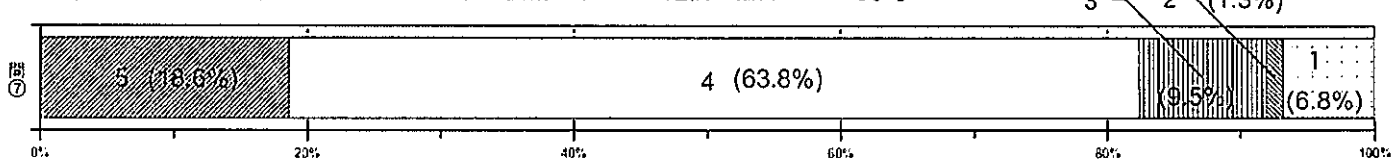
「子ども一人一人が大切にされ、認められる小学校になっている。」



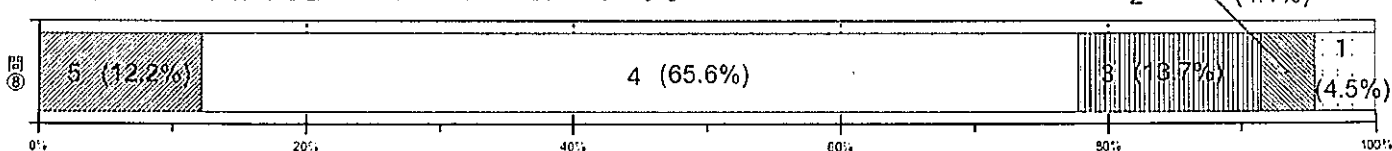
「学校は、子どもの生命を大切にする心や、社会のルールを守る態度を教育している。」

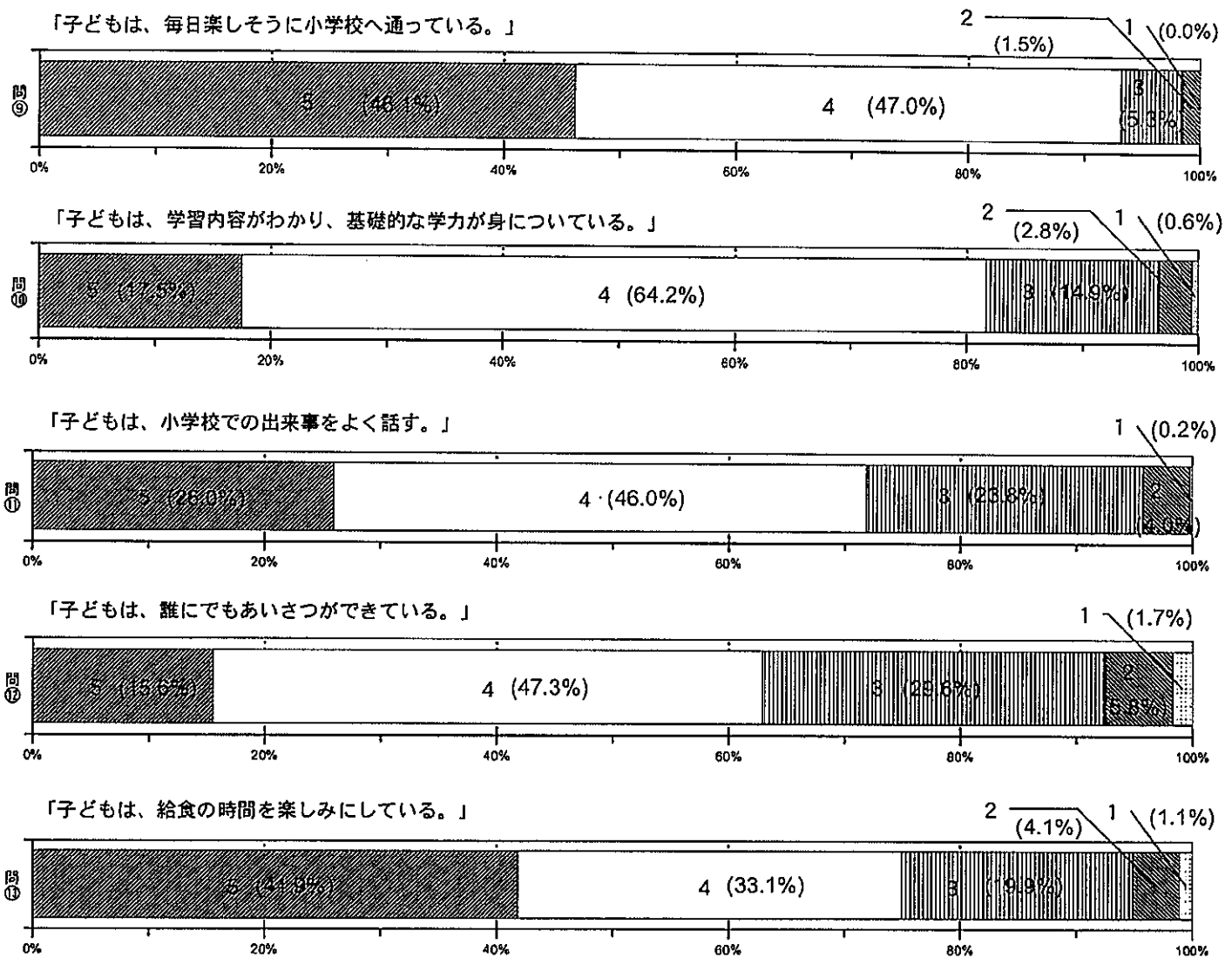


「家庭・地域は、小学校に対してそれぞれの役割を果たし、連携・協力している。」



「学校施設は、教育的配慮がなされ、きれいで使いやすい。」





## 結果と対策について

- ・各問いに対して、5・4の合計が80%を越えている事柄については、概ね保護者の皆様にご理解していただけていると解釈しました。
- ・問⑦については、保護者の皆様により一層学校教育に関心とご理解をいただき、互いに協力して子どもを育てていきたいという願いをもっているため、今後も「学校だより」や「学級懇談会」などの機会を捉えて伝えていきます。
- ・問⑧については、授業の工夫・教材研究を大切にして、子どもが楽しく学べる学校を目指す。
- ・問④⑤は子どもの人権を守っていくためにとても大事なことである。「あまりそう思わない」や「わからない」という保護者の意見が多いので、ご理解いただけるように授業参観などで、今後取り組んでいきたい。
- ・問⑥については、育友会主催の親子美化作業などで保護者の方にご協力をいただき、環境整備に努めている。これからも、保護者の皆様と共にきれいな学校にしていきたい。
- ・問⑨は、「児童全員が毎日楽しく学校に通ってほしい」という思いがあるので、5、4で100%になるように努力していきたい。
- ・問⑩は、高学年になるにつれ学校の出来事を話さなくなる子が増えてくる傾向にあるが、子どもとの会話はとても重要である。家庭で、子どもが学校の出来事や友達関係などについて話し合いがもてる雰囲気作りを大切にしてほしい。
- ・問⑪は、挨拶に対して子どもの消極的な態度が見受けられる。挨拶は人と人とのコミュニケーションをとるための第一歩であるから、学校と家庭で挨拶を進めていきたい。
- ・問⑫は、給食を楽しみにしている子が多いが、あまりそう思わない子やわからない子も25%いる。野菜など苦手な子が多いが、好き嫌いなくバランスのいい食事が大切なことを子どもに家庭に伝えていきたい。

## ※アンケート結果の平均点による考察（教職員）

### 1 良好と評価される項目と更なる努力点(平均3以上)

- 教育目標
- ・学校教育目標は、学校・児童・地域にとって適切である。(3. 4)
  - ・学校教育目標の実現に向けて取り組んでいる。(3. 1)
  - 次年度も、今年度と同じ学校教育目標で実践を進めていきたい。
- 教育課程
- ・教育課程の検討をしている(3. 0)
  - 新教育課程の23年度完全実施に向けて年間指導計画等の検討・改訂を進めている。
- 教科指導
- ・基礎・基本を押さえ、指導の工夫・改善・評価をしている。(3. 1)
  - ・児童の興味・関心・意欲を引き出せる指導の工夫をしている。(3. 0)
  - ・児童の思考力を育てる指導の工夫をしている。(3. 0)
  - ・個に応じた指導をしている。(3. 2)
  - 次年度は年間学年1つの研究授業を実施する事で、互いの授業力向上をさらに目指したい。
- 道徳教育
- ・将来に夢を持たせている(3. 0)
- 総合的な学習
- ・集団活動としての向上を図っている(3. 0)
- 人権・同和教育
- ・ひとりひとりを大切にする指導を行っている。(3. 2)
  - ・人権・同和教育についての研修を行っている。(3. 1)
  - 人権教育の裾野は広がり、同和問題について諸施策の推進により実体的差別は解消されつつあるが、心理的な差別は現実として残され、苦しんでいる人がいる事、その多くは理解不足、誤解からの心ない発言や文書が発端となっている事が多い事を踏まえ、子どもたちは、発達に伴う生活範囲の拡大の中で同和問題に直接・間接に直面する事になる可能性は高い。本校でも、その時、正しく対応できる人間性を育てる必要があり、様々な人・環境の中で現実をまっすぐに受け止め、どんな時にも「自分の大切さとともに他の人の大切さを尊重する」ために必要な人権感覚をそれぞれの発達段階に応じたテーマで心の耕しを積み重ねていくことが大切である。
- 特別支援教育
- ・研修を深め、全教職員の共通理解ができています。(3. 1)
  - ・校内支援体制が整い、交流や学習等の支援ができています。(3. 1)
  - 次年度も、全職員の共通理解の下に特別支援学級在籍児の支援を進めるとともに、通常学級在籍の軽度発達障害の可能性のある児童に対しても支援体制を整えられるよう、子ども理解のための研修をさらに進める。
- 生徒指導
- ・児童の相談に応じている。(3. 1)
  - ・いじめ、問題行動は把握し、解決へとつとめている。(3. 1)
  - 様々な情報収集に努め、児童個々をさらによく理解するとともに、問題行動の早期発見→指導、早期対応→関係機関との連携→指導、不適応行動の未然の予防に努める研修を進める。
- 安全教育
- ・指導計画や実施体制は確立されている。(3. 1)
  - ・児童への指導はできています。(3. 2)
  - ・関係各所への連携はできています。(3. 2)

- 次年度も毎月の安全点検を進め、児童の環境の安全確保に努める。今年度は、東警察署と連携の上で不審者対応訓練を実施するとともに、年間3回の避難訓練を実施した。次年度は、教職員の研修も充実させたい。
- 給食指導
    - ・成長に合わせ、食への関心を高める指導を行っている。(3. 5)
    - 今年度給食の調理・洗浄業務が民間に移管されたが、学校栄養士との連携よくスムーズに安心・安全な給食が実施できている。次年度もさらに食への関心を高める給食指導を目指し、給食業者との連携を深めていきたい。
  - 保健管理
    - ・保健指導は、家庭との連携を図り、適切である。(3. 5)
  - 組織管理
    - ・校務分掌の組織や運営は適切手背ある。(3. 1)
    - ・校長をリーダーとし、全教職員が共通理解の下で学校運営が行われている。(3. 1)
  - 学級経営
    - ・一人ひとりを大切にする学級経営が行われている。(3. 1)
  - 保護者・地域との連携
    - ・保護者や地域の学校への理解や協力が得られている。(3. 0)
    - ・保護者や地域への情報発信は十分にできている。(3. 1)
  - 施設・設備
    - ・施設・設備の点検・整備は定期的に行い、改善されている。(3. 1)

## 2 改善への取組が必要な項目と改善策(平均3未満)

- 教育課程
  - ・各教科・領域等の授業時数は確保され、計画通り実施されている。(2. 9)
  - 今年度は学級閉鎖等もなく、通常授業・諸行事等は滞りなく実施できている。授業時数は枠としては余裕を持って確保されているため、各教職員の更なる年間指導計画遵守への指導を進める。
- 道徳教育
  - ・すべての学習活動を通して、道徳教育が行われている。(2. 8)
  - ・道徳的心情や実践力を培うよう、道徳の時間は工夫して取り組んでいる。(2. 8)
  - ・「心のノート」を活用している。(2. 8)
  - 次年度は、年間35時間の道徳の時間を核に、児童の実態から生じる課題を明確にしたうえで、全教育課程を通じた道徳の指導計画を確立し、実施していく必要がある。
- 総合的な学習
  - ・年間指導計画をもとに充実して進めている。(2. 9)
  - 総合的な学習の時間に関しては、新教育課程の実施の上で、旧課程より授業時数が減少するが、本校独自の取組である、小倉園との交流や老人福祉施設等との交流をさらに充実させていく必要がある。また、56年は、「外国語活動」の時間が年間35時間独立するため、指導計画を確立し、実のある授業展開に努める。
- 生徒指導
  - ・教育相談のしくみが整備され、機能している。(2. 7)
  - 多目的教室等を活用した「教育相談スペース」を確保し、児童の様々な悩み、問題を広くみ取り、また、保護者の子育ての悩みや問題に対応できる教育相談の分掌を生活活動部内で組織し、実践的な活動を進める。そのため、校務分掌を一部見直す。
- 研修
  - ・研修を深め、教育実践に生かされている。(2. 8)
  - 悉皆研修や指定研修は確実に実施されているため、長期休業中等を活用した専門研修や、自主研修を奨励するとともに、研修に参加しやすい職場環境を醸成するように努める。

# 平成22年度学校運営計画書

学校名 和歌山市立小倉小学校

校長名 西 端 幸 信

作成日 平成22年 5月 6日

## 学校教育目標

『豊かな心情を持ち、よく考え、健康できまりある活動のできる子を育てる』  
 〈小倉の自然、社会、文化に根ざした特色ある学校づくり〉

## 育てたい子ども像

・豊かな心を持ち、みんなと仲良くする子

・すすんで学び、よく考える子

・心身ともに健康で、生き生きした子

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力	コミュニケーション力・表現力
本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の教育資源や人材を活用する。</li> <li>○校報、HP等を通じて学校からの情報発信を活発化させる。</li> <li>○育友会、地域諸団体との連携を密にし、積極的に学校施設の開放、行事の共催を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○豊かな体験活動の充実を図る。</li> <li>○各学年ともテーマを持った交流学习に取り組む。</li> <li>○温かい人間関係づくり、一人ひとりが生き生きと活動できる学級集団を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業を工夫改善し、基礎基本の確実な定着を図る。</li> <li>○体験的な学習や課題解決的な学習を通し、課題に主体的に取り組み、解決する能力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己肯定感（自尊感情）を育み、他の人の尊厳を尊重し、共によりよく生きようとする態度を育てる。</li> <li>○自分の考えや気持ちを適切な表現方法を工夫して、相手に伝えようとする態度を育てる。</li> </ul>
目標達成に向けた具体的方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間や道徳等において積極的に地域教材や人材を活用する。</li> <li>・道徳の授業として保護者である助産師をゲストティーチャーにむかえ「生命の教育」を実施する。</li> <li>・総合的な学習の時間に地域の食育指導士・姿勢、歩き方のアドバイザーをむかえ、「食育と姿勢」と題しての講話と姿勢チェックを通して児童自らが「体と食について」考える機会とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年では幼稚園・保育所との交流学习、2年では、地域のお年寄りとの交流学习、3年では、校区探検等の地域学習、4年では、ごみやリサイクル等の環境学習、5年では障害者施設との交流学习、6年では特別養護老人施設との交流学习に取り組む、体験による触れ合いから、思いやりやノーマライゼーション、コミュニケーション力等多くのことを学ぶ。</li> <li>・道徳に「生命を大切にする」取り組みとして、保健所出前授業「わうくらす」に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算や漢字練習は、毎日の学習として、位置づけ取り組む。</li> <li>・単元の終わりには、特に復習に力を入れ、基礎基本の定着を図る。</li> <li>・『生きる力』を育むために、自然や社会の現実に触れる機会を多く計画し、児童が感動や驚きを体験する中で、自ら考え、課題を解決し、自分の言葉で表現する力を育成するよう取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「表現力・コミュニケーション力の育成」「主体的生活の育成と基本的生活習慣の確立」「自己肯定感の育成と学級集団づくり」を取組の視点とし、3部会（授業研究部・生活活動部・心の教育部）が教科・領域にとらわれずに連携しながら研究を推進する。</li> <li>・全教科、領域の中で「書く活動」を重視し、表現力を高める。</li> </ul>

## 平成22年度 自己評価書 (A)

学校名 和歌山市立小倉小学校

校長名 西端 幸信

作成日 2011.1.21

### 学校教育目標

「豊かな心情を持ち、よく考え、健康できまりある行動のできる子を育てる」  
 〈小倉の自然、社会、文化に根ざした特色ある学校づくり〉

	開かれた学校	豊かな心	確かな学力	表現力・コミュニケーション力
本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の教育資源や人材を活用する。</li> <li>○校報、HP等を通じて学校からの情報発信を活発化させる。</li> <li>○育友会、地域諸団体との連携を密にし、積極的に学校の開放をし、行事の共催を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○豊かな体験活動の充実を図る。</li> <li>○各学年ともテーマを持った交流学習に取り組む。</li> <li>○温かい人間関係づくり、一人ひとりが生き生きと活動できる学級集団をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業を工夫改善し、基礎基本の確実な定着を図る。</li> <li>○体験的な学習や課題解決的な学習を通し、課題に主体的に取り組み、解決する能力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己肯定感(自尊心)を育み、他の人の尊厳を尊重し、共によりよく生きようとする態度を育てる。</li> <li>○体験的な学習や課題解決的な学習を通し、課題に主体的に取り組み、解決する能力を育てる。</li> </ul>
取組の具体的方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間や道徳等において積極的に地域教材や人材を活用する。</li> <li>・道徳の授業として保護者である助産師をゲストティチャーに迎え「生命の教育」を実施する。</li> <li>・総合的な学習の時間に地域の食育指導士・姿勢、歩き方のアドバイザーを迎え、「食育と姿勢」と題しての講話と姿勢チェックを通して児童自らが「体と食について」考える機会とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年では幼稚園・保育所との交流学習、2年では地域のお年寄りとの交流学習、3年では校区探検等の地域学習、4年では、ゴミリサイクル等の環境学習、5年では障害者施設との交流学習、6年では特別養護老人施設との交流学習に取り組む、体験による触れ合いから、思いやりやノーマライゼーション、コミュニケーション力等多くのことを学ぶ。</li> <li>・道徳の「生命を大切にする」取り組みとして、保健所出前授業「わうくらす」に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算や漢字練習は、毎日の学習として、位置付け、取り組む。</li> <li>・単元の終わりには特に復習に力を入れ、基礎基本の定着を図る。</li> <li>・「生きる力」を育むために、自然や社会の現実に触れる機会を多く計画し、児童が感動や驚きを体験する中で、自ら考え、課題を解決し、自分の言葉で表現する力を育成するよう取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「表現力・コミュニケーション力の育成」「主体的生活活動の育成と基本的生活習慣の確立」「自己肯定感の育成と学級集団づくり」を取組の視点とし、3部会(授業研究部・生活活動部・心の教育部)が教科・領域にとらわれずに連携しながら研究を推進する。</li> <li>・全教科・領域の中で「かく活動」を重視し、表現力を高める。</li> </ul>
取組の成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャーを招聘しての事業としては、地域の人材として助産師による生命の授業、歩き方アドバイザーによる食育と姿勢の他、弁護士によるいじめと人権の授業、JAによる学級園での収穫物を使った料理教室、串刺作り、水墨画体験、稲刈り体験、和菓子作り体験等を実施した。</li> <li>・諸行事では、育友会ファミリーコンサート、ウォークラリー、連合自治会の小倉文化祭りに協力し、多くの児童が地域の人々との交流をする事ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所出前授業「わうくらす」や助産師出前授業「生命の教育」に取り組んだ成果として、生命を大切にしたい心や人を思いやる心が育っている。</li> <li>・4年生で環境学習・郷土学習の一環として、プルタブ・ペットボトルのキャップ集めなどを学級から学校・地域へと広める事ができた。また、校区の諸使節を訪問し、交流を深める等の活動ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力診断テストでは、計算や前年度の漢字の読みとり等に弱さがあるため、もっと朝学を充実させたい。</li> <li>・児童が感動や驚きを体験できるよう出前授業や交流学習等の体験的な学習を多く実施し、体験をもとに、自ら考え、課題を解決し、自分の言葉で表現する力や判断する力を育てる学習活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏期研修としてコミュニケーション力をスキルととらえ、スキルトレーニングの研修を実施できた。</li> <li>・「たぐ力」だけでなく「聴く力」をつける必要がある。</li> <li>・自己肯定感の育成は、学級集団作りを基礎に取り組んでいるが、なかなか目に見えてこない。</li> </ul>
次年度に改善に向けての	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、計画していたゲストティーチャー招聘事業や地域との交流活動は、順調に実施でき、開かれた学校・学校からの情報発信も目標達成できたと考えられる。</li> <li>・次年度は、新学習指導要領完全実施の年であり、総合的な学習の時間の配当が減少することもあり、内容の生鮮を進めるとともに、学年間の系統性を高めた諸活動へと再編成していく必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年では幼稚園・保育所との交流学習、2年では地域のお年寄りとの交流学習、3年では校区探検等の地域学習、4年では、郷土学習・環境学習、5年では障害者施設との交流学習、6年では特別養護老人施設との交流学習に取り組む、全学年で交流学習に取り組めたので、来年度も継続していきたい。</li> <li>・道徳の「生命を大切にする」取り組みの一環として、保健所出前授業「わうくらす」に取り組んでいるが、来年度も継続していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学年から朝学の時間を設定し、計画的に計算と漢字の定着に取り組む。</li> <li>・生活の時間や総合的な学習の時間の体験的な学習・交流学習を教科学習との関連でもとらえ、学年の目標、児童の実態を考えて、合科的に整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「表現力・コミュニケーション力の育成」「主体的生活活動の育成と基本的生活習慣の確立」「自己肯定感の育成と学級集団づくり」を取組の視点とし、3部会(授業研究部・生活活動部・心の教育部)が教科・領域にとらわれずに連携しながら研究を推進する。</li> <li>・全教科・領域の中でかく「聴く」「話す」「伝え合う」力を総合的に育成し、コミュニケーション力・表現力を高める指導を行う。</li> </ul>

### その他学校運営についての課題や計画

学校運営での課題は、校務分掌中心に運営できないことである。本校では、現職教育の3研究部(授業研究部・心の教育部・生活活動部)中心に運営が行われている。また実際の児童への指導や学年行事等は、担任中心に進められるため、学校全体のものにはなりにくい現状である。

・低・中・高学年の3ブロックで、2年間を見通して計画を立て、担当教員が協力して児童の指導にあたる。

・毎週1回学年会を開き、学年の課題に対する具体的対応を明確にし共通理解を図り実践する。

# 平成22年度 外部評価書

学校名 和歌山市立小倉小学校

作成日

2010. 02. 25

	開かれた学校	豊かな心	確かな学力	コミュニケーション力・表現力
本年度の重点目標に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○. 色々と地域に開かれた学校となっている。</li> <li>○. 育友会や地域諸団体との連携も取れており、学校開放できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○. 豊かな心を持つ小倉の子どもたちであったと感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○. 各先生方とも授業は創意工夫されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○. 人の尊厳の尊重はできていると思われる。課題に対する解決力もおおむね良と感じる。</li> </ul>
取り組みの具体的方策に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○. 地域からの講師を迎え「生命の教育」を実施し、地域の人材を活用している。</li> <li>○. 「食育や姿勢」の講話では、「体と食について」を考える機会を与えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○. 各学年とも小倉地区の色々な施設や保育園・保育所、学校との交流を図り、多くのことを学んでいると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○. 「生きる力」を育むために、自然や実社会に触れ合う機会を作り実現して、子どもたちが自分たちで考えることを取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○. 表現することは、述べることだけで無く、色々な方法で自分の考えを発表することである。</li> </ul>
取り組みの成果と課題に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○. 子どもたちに対する知識は共有することが出来ている。</li> <li>○. 地域に対して「情報伝達」の方法をもう少し工夫してほしい。</li> <li>○. 諸行事では育友会や連合自治会主催の権に協力して交流を図っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○. 色々なところの色々な人々との交流により、人として命の大切さや思いやりを育てていると思われる。</li> <li>○. 環境問題では、プルタブやペットボトルキャップ集めで学級から学校、そして地域へと広めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○. 基礎学力としては中程度とのこと。</li> <li>○. 計算や読み取りなどの「朝学」を充実させたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○. 全体に聴く力が不足しているように思われる。</li> <li>○. 自己肯定感が乏しいように感じる。</li> </ul>
改善方法に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>○. 人材を地域におられる方々を発掘することに力を入れて、活用されることを望む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○. 小学校の6年間で豊かな心を思いやりの心を育てていくこと。弱者への思いやりをどう付けていくかが課題。</li> <li>○. 次年度も継続的に各保育園・学校、施設との交流を続けていくことを望む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○. すべては国語力から始まると思われる。もっと国語力を付けるようにさらなる充実を望む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○. 色々な所で鍛えていかねばならない。</li> <li>○. 「書く」ことにもっと時間を費やして、自分の思いを伝えることが出来るように。</li> </ul>

## その他学校運営の改善に関する意見

- . 小倉小学校だけではないのだろうが、教師が疲れているようである。そのような状況を解消できるところは改善を望む。
- . 教職員と育友会や地域が交わってコミュニケーションを取れるよう施策があればと思う。
- . 今年度から始まった民間調理による学校給食では、おおむね満足のいく内容となっている。これからも「安心で安全でおいしい学校給食」となるように、育友会と地域を交えて監視や意見反映ができるよう継続した取り組みを望む。